

困窮学生にそうめん

島原農高生「元気出して」 長崎大に5000食を寄贈 地場企業と開発の特産品



河野茂学長(左端)に製品を寄贈する島原農業高の生徒たち

島原農業高(島原市)と製麺業「山一」(南島原市)が、経済的に困窮する大学生を支援しようと、即席そうめん5千食を長崎大(長崎市)に寄付した。かつて共同開発した自慢の商品。「島原半島特産のそうめん」で元気を出してほしい」と願う。

アルバイトの減少など大学生が苦境にあることが高校生たちの間で話題になり、2009年から製品を共同開発している同社に相談、実現した。

提供したのは、麺をゆでて粉末

スープを入れるだけで食べられる「スープそうめん」。大学は学生への配布方法を検討する。

25日に同大文教キャンパスで寄贈式があり、代表して生徒会メンバーが河野茂学長に製品を手渡した。生徒会長の3年佐々木涼花さん(17)は「学校で開発した製品を困っている大学生に食べてもらえることがうれしい」。河野学長は「コロナの影響で仕送りやバイトも減り、食事に困っている学生がいる。しっかり役立てたい」と深く感謝した。

(華山哲幸)